



現在の笹塚駅前には「広場」がない。改札を出るとすぐショッピングモールと住宅街に足を踏み入れることになる。駅周辺は車と人の往来が途切れない。安全を確保するため最大限の配慮が必要になる。



現在、鉄骨建方作業が進む9階部分。

### 生まれ変わる 笹塚駅前の新ランドマーク

新宿駅から京王線で五分、笹塚駅のホームに降り立つと、南側の線路に沿うようにシートで覆われた建設中の巨大な建造物が迫ってくる。一昨年十二月に着工した（仮称）京王重機ビル再開発事業の建設現場だ。駅前からアパートやマンション、一戸建ての住宅街が広がるベッドタウンで一際目をひくこのビルは、地上二一階、地下二階。集合住宅、オフィス、店舗が入居予定の複合施設だ。築後約半世紀を経た京王重機整備（株）のビルを建て替え、新たな笹塚のランドマークとして再開発している。

七月上旬の段階で九階までの鉄骨建方が完了し、これを追いかけるように低層部からコンク



上層階に向かうにつれその表情を刻々と変化させるユニークな複合ビル。住む、働く、楽しむといった要素をひとつの上質な空間に集約する。（提供：鹿島建設（株））

#### 工事概要

発注者：京王重機整備株式会社  
 施工者：鹿島・京王建設共同企業体  
 工期：平成24年12月～平成27年1月（予定）  
 延床面積：約38,400㎡  
 規模：地上21階、地下2階、塔屋1階

リートの打設が始まっていた。現場を統括する鹿島・京王建設共同企業体の増田孝弘所長（鹿島建設（株））に、現場の概要を伺った。「ここはかつて発注者である京王重機さんの車両整備工場があった場所ですが、今は閑静な住宅街です。この建物は周辺で最も高いビルになりますから、笹塚のシンボルとして街の活性化を期待する声も聞こえてきます」。

京王重機整備（株）が掲げるまちづくりのコンセプトは「結ぶ」。暮らし、安心、環境など幅広いフェーズを結び、住む人、訪れる人、働く人に新たなステージを提供する。（仮称）京王重機ビル再開発事業は笹塚駅南口のまちづくり事業の出发点と位置づけられている。

駅改札から地区内の商業施設までは屋内通路と広場で結び連続的に整備する。周辺には歩行

者の憩いの場など多様な用途に対応する空間を配する。災害時の避難場所として防災機能の一端も担うことになる。敷地内には隣接する玉川上水の緑を継承し、可能な限り緑化空間を創出するという。低層住宅が軒を連ね、細い路地ですなされた駅前の風景は、広々と視界が開けた賑わいの空間に生まれ変わる。

#### 鉄道を背負った住宅街の高層ビル建設

しかし、その施工条件には独特の難しさがあると増田所長は話す。「北側に笹塚駅を背負っており、残る三方は住宅街に囲まれているため、周辺住民に対する負荷低減が最も重要なテーマになる現場です」。

資機材の搬入ゲートは一方のみだ。工事車両は二〇〇ほど離れた北側の甲州街道から京

# 現場での経験 旺盛な知識欲が 次代を拓く

（仮称）京王重機ビル再開発事業

渋谷区笹塚。新宿、渋谷、東京など主要なターミナル駅まで三〇分圏内のこの街で新たな都市計画事業が展開されている。この「笹塚駅南口地区地区計画」の起点となる「（仮称）京王重機ビル再開発事業」の建設現場を訪ねた。鉄道の軌道と住宅街に囲まれた現場。高層ビルは三つの顔を持ち、用途に合わせて外観を変容させながら上空を目指す。パリエーションに富んだ工法、技術に触れながら若手社員たちが研鑽を積んでいた。







上/常に一步先の工程を考えて綿密な相談、打合せを繰り返す。  
下/図面担当だが、今後の工程では現場に出る機会も増えてくる。



2年生のコンクリート打設担当です。就活で「現場訪問」した際、心で現場にぶつかっている先輩に出会い、その活気溢れる仕事ぶりに憧れてこの世界に入りました。職人さんから教わる事が多いので、コミュニケーションを大切にしています。(友池美耶子さん)



施工図面の管理に携わっています。自信を持ってまとめた躯体図を見た職人さんに「図面ではこうなっているけど現場ではちょっと無理だね」と指摘されることもしょっちゅう。苦勞も多いけど、私自身にとっては成長を実感できる貴重な現場です。(川上佳奈さん)



この現場では鉄骨を担当。異なる工法を経験できる希少な現場です。増田所長は一見建設業界っぽくないスマートさがある、何でも相談できます。語り口も優しいんですけど、話されている内容は怖いほど厳しいことがあり、一言多い私は怒られてばかりです。(中村麻希さん)

王線の高架をくぐって進入してくる。その間に約一〇名もの警備員を配置し、万全な誘導体制を敷いた。鉄骨の施工が完了すると住宅街に面したところから即座に防音シートで現場を覆い、騒音を低減している。増田所長は「京王重機さんも早期から安全、安心を旨として近隣の皆さんと調整をしてこられました。その信頼と周囲の期待に応えなければなりません」と気を引き締めている。

### 現場で経験を積む、座学で知識を磨く

建設中のビルは異なるファサードが三層に連なる外観が特長的な高層ビルだ。一階から三階

は現代的な店舗ゾーン、その上、八階までがガラス張りのカーテンウォールに包まれたオフィスフロア、一〇階から二一階は二六戸が入居するハイグレードな賃貸住宅になる。しかし、低層から施工を進め、工程が習熟度を高めたところで建物の構造が切り替わり、現場のリズムも変わってしまう。増田所長は決して容易な現場ではないと話す。「三つの用途が一カ所に集約されたビル。構造や設備もそれぞれ異なります。だからこそこの現場には様々な技術、工法が導入されている。若手にはいい勉強の場になるはずですよ」と語る。

増田所長には三〇歳頃に携わったとても印象的な現場がある。やはり高層ビル建設の仕事だった。スポンサーは他社のゼネコン、JVに「そこで頻繁に勉強会が開催されていたんです。会社や立場を超えて若手が集まって工法や技術について討論し、切磋琢磨する。いい機会になりました」と回想する。現場で場数を重ねるだけでなく、座学で知識を身につける大切さを学んだと言う。そのため、この現場でも若手には貴重な経験を積みながら、どん欲に知識を吸収してほしいと考えている。「そういう気持ちで若手に伝わっているかどうか、ちょっと怪しいですけどね」と苦笑した。

### 建設業界の未来を担う女性職員たち

現場には三人の若手女性職員が働いている。増田所長はもちろん彼女たちに対しても、次代の建設業界を担うプロフェッショナルとして育成すべく指導をしているという。女性の進出が加速しているとはいえ、男性社会のトーンが色濃く残る建設現場において戸惑いはないのだろうか。「男性側が女性との接し方に慣れていなかったせいか、正直、最初の頃は多少まごつくこともありました。でも、現場ではそんなことに頓着する余裕はない。モノづくりに対する姿勢、その喜びやつらさに男も女もないでしょう?」

女性職員が働く現場は確かに活気があるという。増田所長は日々奮闘する彼女たちをアスリートにたとえた。「女子サッカーに女性らしさが必要でしょうか。日々練習を繰り返して、必死に技を磨き続けている選手はそれだけかっこいい。一生懸命やっている姿が美しいんです」。気になるのはむしろ将来のことだ。彼女たちが管理職として現場を率いるとき、人員の多くを男性が占める現場を躊躇なく仕切ることができ、指揮官に成長してほしいと願っている。

三人にお話を聞く機会があった。当然のことながら所長をはじめ、ベテランの職人さんに学ぶことは多いと話す。さらにその言葉の端々から、取得した知識を自分なりに掘り下げ、現場でそれを生かそうとする意欲が伝わってきた。ことさら男女を意識している様子は微塵も感じられない。若手社員らしく異口同音に現場の楽しさ、難しさを口にした。増田所長の語る「現場でのスキルアップと旺盛な知識欲」は彼女たちにもしっかりと伝わっている。



今は現場に没頭する日々。将来的には本支店の業務も経験したいという。



仮囲いの一角を活用して小さな花壇をつくった。警備員や作業員が交代で水やりをしている。苗の仕入れは女性職員の川上さんが「園芸部」として担当。「ささやかですが地域貢献になればと大切に育てています」。

## Q あなたがこの現場で発見したことは何ですか?

A これまで「建築」一筋でやってきましたが、この現場で初めて所長を拝命しました。気付かされたのはその責任の重さです。世界観が一変するほど「所長」の使命は重い。鉄道と住宅に包囲された狭隘な現場で、危険因子も少なくありません。いかに安全に施工を進捗させるか、近隣の皆さんに安心を担保するか、すべて私の判断で決まってしまう。夜間も落ち着かない

ことがしばしばです。かといって孤独感に苛まれることはありません。何かあれば相談に乗ってくれる仲間が会社や現場にたくさんいますから。かつて私を育ててくださった「所長」には近付き難いオーラがありました。まだまだ手探り状態ですが、私も仲間意識とカリスマ性を兼ね備えた統率者としてこの現場を引っ張っていきたくと考えています。



鹿島・京王建設共同企業体(仮称)京王重機ビル再開発事業所長  
**増田孝弘**  
Takahiro Masuda